

トピックス

長野県絶滅種のコケリンドウが再発見されました！

長野県版レッドリストで絶滅として扱われていたリンドウ科の草本植物コケリンドウ *Gentiana squarrosa* Ledeb. が2010年に富士見町で生育していることが確認されました。長野県版レッドリストにおける絶滅種が再発見されたのは、ホソバノシバナ、スギナモ、ジロボウエンゴサク、アイナエに続いてコケリンドウで5種目となります。

コケリンドウは、日当たりのよい草地に生育する越年生草本で、高さ3～10cmと非常に小型です。春に小さな花を咲かせ、種子をつける時期にはアヒルの口のように果皮を開き、雨粒が当たる衝撃で種子を散布します(図1、2)。日本の本州、四国、九州に分布するほか、朝鮮半島、中国大陸、台湾、インド北部、シベリアに分布します。

長野県でのコケリンドウの記録は、『長野県植物誌』で引用された軽井沢町、松本市、木曾福島町で採集された標本のほかに、『長野県植物誌資料集CD-ROM』に朝日村、望月町(現佐久市)、茅野市で採集記録があります。それらの記録はすべて1928年以前のもので、長野県版レッドリスト作成時には、それ以後の標本記録がなかったことから、同リストにおいて絶滅種とされていました。また、長野県の近隣県では、山梨県で広く分布しますが、群馬県、



図1 花盛りのコケリンドウ

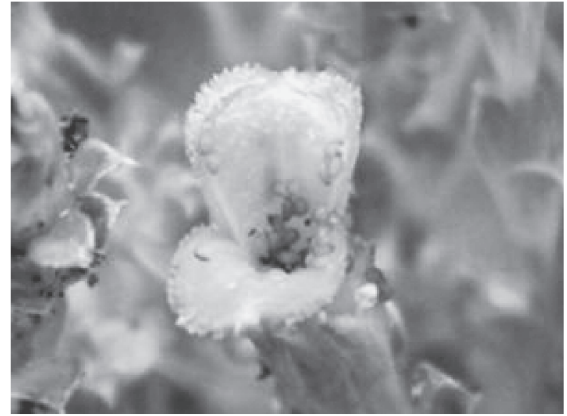


図2 コケリンドウの種子散布の様子
(ゴマのような小さい粒が種子)

愛知県、岐阜県ではいずれも絶滅危惧種に指定されています。

今回、生育が確認された富士見町に加え、2013年にも茅野市で生育が確認されました。しかし、確実な生育情報は県内ではこの2地点のみで、加えて踏みつけの影響や土地の造成がされやすい生育環境であることから、長野県におけるコケリンドウは絶滅しないように保全をすすめていく必要があると考えられます。

現在長野県では、長野県版レッドリストの改定を進めており、今回発見されたコケリンドウも改定の対象種として今後検討がなされていきます。

参考文献：三石稔・尾関雅章(2013) 長野県絶滅種コケリンドウの富士見町での生育確認，長野県環境保全研究所研究報告，9:81-83.

(横井 力 kanken-shizen@pref.nagano.lg.jp)